

イブランス+フェソロデックス+リュープリン療法(閉経前)
(1コース目)

外科 管理番号 D23

処方医:

適応: 閉経前乳癌

4週間を1クールとし投与を繰り返す

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
フェソロデックス	●														●													
リュープリン3.75	●																											
イブランス(内服)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
身長:	 cm		体重:	 kg		体表面積:	 m ²																					

採血はサイクル1の投与前、day,8,15
サイクル2のday1,15
以降は各サイクルday1の4週毎

[投与スケジュール]

1クール目

Day1(月 日)~Day21(月 日)

薬剤名	投与量	用法
イブランス		1日1回 食後

Day1(月 日)

薬剤名	投与量	用法
フェソロデックス筋注250mg	2筒	左右の臀部に1筒ずつ筋注 (1~2分かけて)
リュープリンキット3.75mg	1キット	皮下注*

* 上腕部、腹部、臀部の皮下
注射部位は毎回変更し、同一部位への反復注射は行わない
注射針は25ゲージまたはそれより太いものを使用すること
もまないように指導すること

Day15(月 日)

薬剤名	投与量	用法
フェソロデックス筋注250mg	2筒	左右の臀部に1筒ずつ筋注 (1~2分かけて)

[適正使用基準]

1. 妊娠又は妊娠している可能性がない
2. 授乳中の婦人ではない
3. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴がない

[重大な副作用]

- ・肝機能障害
- ・血栓塞栓症
- ・肝機能障害、黄・下垂体卒中
- ・骨髄抑制(イブランス)
- ・間質性肺炎〔咳・息切れ・呼吸困難・発熱等〕
- ・アナフィラキシー様症状〔血圧低下・呼吸困難・喘鳴・蕁麻疹・不快感等〕
- ・糖尿病の発症または増悪

<イブランス減量基準>

通常量	125mg/日
1段階減量	100mg/日
2段階減量	75mg/日

<好中球減少症および血小板減少に対する用量調節>

Grade1又は2	同一投与量を継続
Grade3	休薬。1週間以内にGrade2に回復後、同一投与量で投与再開する。 回復まで1週間以上や次サイクルでGrade3の好中球減少が再発する場合は減量を考慮
Grade3(好中球減少に38.5℃以上の発熱、感染がある場合)	Grade2以下に回復するまで休薬後、1段階減量して再開
Grade4	Grade2以下に回復するまで休薬後、1段階減量して再開

<非血液毒性の副作用>

Grade1又は2	同一投与量を継続
Grade3以上	治療しても症状が継続する場合、Grade1以下またはGrade2で安全性に問題がない状態に回復するまで休薬。 回復後1段階減量し投与再開する。